

登別市史編さんだより

経過報告 薬師如来の石碑（登別温泉町）



薬師如来堂（登別温泉町）

差配人善四郎外	硫黄山栃内氏	文久酉元年四月八日	薬師如来
---------	--------	-----------	------

石碑の碑文

登別地獄谷の遊歩道入口近くにある薬師如来堂には、左のように書かれた石碑が安置されています。

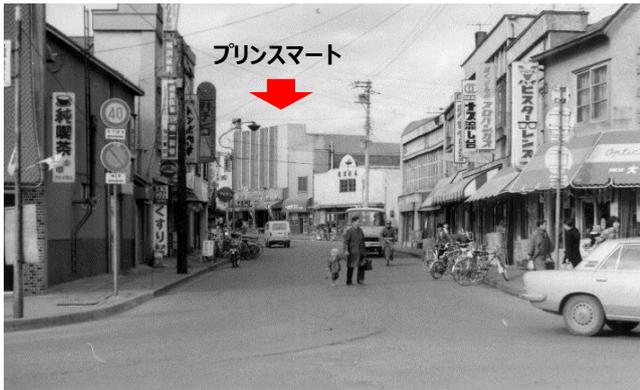
文久元（1861）年頃の北海道には、江戸幕府から北方警備を命じられた東北地方の諸藩が各所に駐屯し、登別市の区域は南部藩（本拠地：岩手県盛岡市）が担当しました。そして、登別地獄谷では火薬製造などのために同藩が硫黄の採取を行っていました。

碑文にある「栃内氏」は、南部藩の家臣で、もりおか歴史文化館（盛岡市）が所蔵する南部藩関係資料によると、「栃内民惣」という人物であることがわかります。

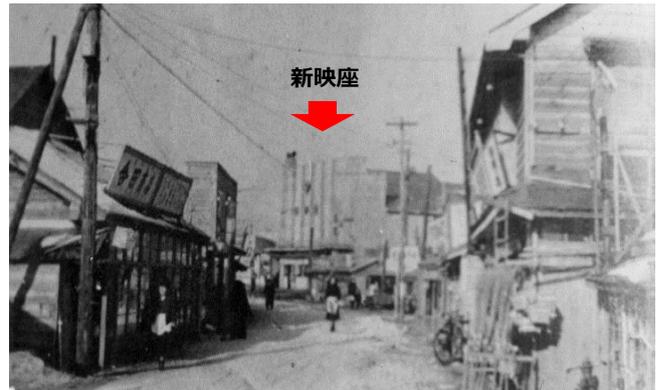
しかしながら、この「栃内民惣」。幕末の南部藩士の名簿に名前を見ることができず、経歴などは不明のままです。そのため、今後も調査を継続したいと思います。

ちなみに、南部藩士「栃内氏」は、同藩で軍事指導を行う役職を担っていたようであり、また、その一族は、『遠野物語』で有名な岩手県遠野市の一部も治めていました。

追加情報 三角地帯の写真の撮影場所



昭和47年撮影



昭和29年撮影

前号にも掲載したこの2枚の写真。撮影場所を示す地図では別の道路としていましたが、複数の方より「同じ道路で撮影したものでは？」との問い合わせがありました。

改めて聞き取り調査を行ったところ、時期は違うものの店舗などから同じ道路で撮影した写真であることが判明しました。そして、更に多くの情報を聞き取ることができ、地域への認識を深めることができました。

古い写真の判読には多くの情報が必要となります。

登別市史編さんだより等に掲載する写真についてお気づきの点や思い出されたことがある際には市史編さんグループ（電話：50-6039）までご連絡をお願いします。

●社宅街（富士町）



昭和33年撮影



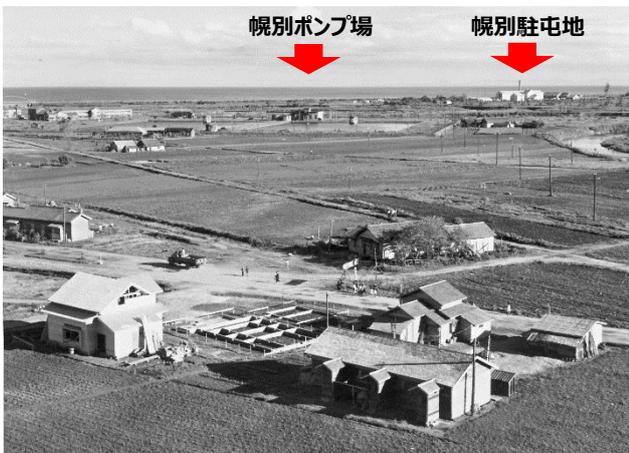
現在

昭和15（1940）年から日本製鐵(株)の社宅建設が始まり、統一規格の住宅が道路に沿って整然と立ち並ぶ富士町の社宅街。

この社宅街では、昭和33（1958）年に、それまで東西南北の4つに分かれていた自治会が統合して新たに町内会「新和会」が発足し、更に25年後の昭和58（1983）年には、写真左上の土地に登別市民会館がオープンします。

建設当初は、統一規格で建てられた社宅街ですが、現在は、その名残を留めつつも個性豊かな住宅が並ぶ住宅街へと移り変わりました。

●日本製鐵(株)幌別ポンプ場方面



昭和33年撮影



現在

社宅街を撮影した写真と同じ時期に撮影された新川町4丁目の写真です。

昭和33年には幌別ポンプ場のほかに数軒の建物しかなく、陸上自衛隊幌別駐屯地（緑町）の建物までを見ることができた新川町4丁目方面。

現在は多くの住宅が立ち並び、幌別ポンプ場や陸上自衛隊幌別駐屯地を片倉町から見るのが難しくなりました。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりの方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ 千葉・菅野・更科・玉田・佐藤

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108